

飯伊地区 産業経済動向

No.481 2019/4
(元. 5. 25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
地域サポート部
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	3,027 枚	11.7 %	△ 9.3 %
	金額	3,785,301 千円	△ 26.0 %	△ 16.0 %
うち不渡発生状況	枚数	5 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 9 枚)
	金額	794 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 10,991 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	7 件	(前月 8 件)	(前年同月 5 件)
	飯伊	1 件	(前月 0 件)	(前年同月 1 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(3月)		47 戸	17.5 %	2.2 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(3月)		1.31 倍	(前月 1.38 倍)	(前年同月 1.60 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,291 台	△ 37.6 %	20.7 %
	中古車	881 台	△ 1.2 %	40.3 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (3月)	新車	6,216 台	30.0 %	△ 4.8 %
	中古車	1,127 台	47.3 %	3.6 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	112,299 台	△ 4.3 %	0.3 %
	出	114,095 台	△ 4.4 %	0.9 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	74,973 台	△ 2.1 %	0.7 %
	出	71,790 台	△ 2.0 %	0.7 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	21,031 台	57.5 %	△ 20.0 %
	出	24,214 台	77.7 %	△ 22.5 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	44,283 台	13.3 %	△ 1.3 %
	出	44,940 台	16.9 %	△ 4.3 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		129 件	△ 25.9 %	6.6 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		1 件	(前月 4 件)	(前年同月 0 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	26,487 人	△ 13.7 %	2.8 %
	飯田～名古屋	18,656 人	△ 7.9 %	△ 3.9 %
	飯田～長野	9,366 人	△ 4.8 %	△ 1.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	21,794 人	△ 13.7 %	- %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,317 人	△ 11.0 %	0.7 %
	右回り	3,343 人	△ 5.1 %	△ 1.8 %

【訂正】 本誌4月発行号No.480主要経済統計「中央道利用台数(松川インター分)出」の数値を、次の通り訂正いたします。
誤：61,078 → 正：73,238

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

概 況

製造業

4月の製造業の業況判断指数(DI)は、製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス23.1で、前月から1.7ポイント下降。翌月予測もマイナス45.8で、前月から15.0ポイント下降している。

電気、精密機械器具の販売の前月比は、業者により増減分かれるが、景況感に大きな動きは見られない。半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、横ばい～やや増加。しかし、前年比は減少しており、景況感が好転した業者は見られない。産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、やや増加した業者も複数見られるが、減少～横ばいとの声が多く、景況感も、好転ないし横ばいとする業者と、「ジリジリと下降」など悪化した業者が半ばする。建築用金属製品の販売は、前月比概ね横ばいも、前年比増加との声。自動車向け部品の販売は、前月比やや減少も、景況感の悪化には至らないとの声。光学機器部品の販売は、前月比、前年比ともやや減少も、受注がやや回復したこともあり、景況感の悪化には至っていないとの声が寄せられた。小型電磁機器の販売は、前月比やや減少。一部に景況感が悪化した業者も。FA関連モーターの販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声。先行きの不透明感が強くなっている。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。一部に、前年比もやや増加との声が聞かれたが、総じて景況感の好転には至っていない。水引製品の販売は、前月比横ばい～増加。「5月の連休の影響で4月後半は売上があった。ただ、連休過ぎが心配」「例年の注文は前年並と見ている」などの声が寄せられた。

建設業

4月の建設業の景況DIはマイナス28.6で、前月から13.2ポイント下降。翌月予測DIはマイナス20.0で、前月から1.4ポイント上昇。

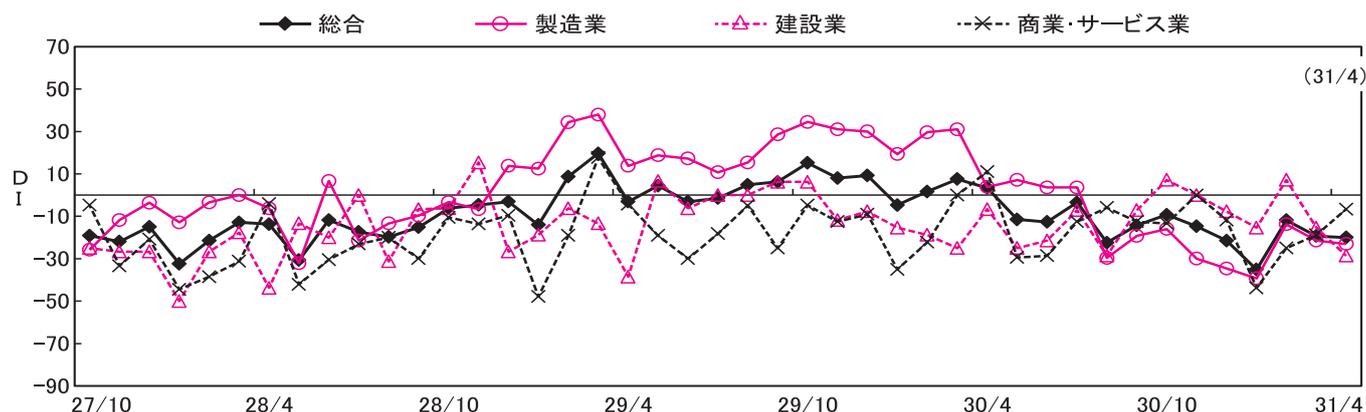
当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約11.8億円となっている(5月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増加した業者、減少した業者ともに見られるが、「管内の工事量が多いのか、各社ともに仕事がある様子」「前年度に比べ増加」など、やや増加～増加とする業者がやや多い。

当地区の3月の住宅着工戸数は47戸。前月比18%増加、前年比も2%増加。調査先企業の受注残高の前月比は、横ばいとの声が多い。「リフォームや改修などが集中して忙しくはあったが、受注金額は小さい。大きな工事は官民ともに少ないのでは」「消費増税前の駆け込み契約があり、例年より受注件数はあるようだが、今後の心配」などの声。

商業・サービス業

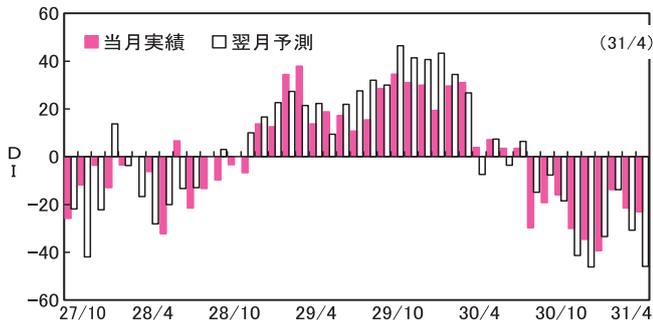
4月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス6.7と、前月より12.1ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス12.5で、前月より19.2ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、減少～横ばいも、景況感が悪化した業者は見られない。青果卸売市場の販売は、前月比増加も、前年比やや減少という。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。電化製品の売上は、前月比、前年比とも増加、先行きも強含みとの声が寄せられた。家事用品の売上は、前月比増加との声。OA機器の売上は、前月比減少の様子。衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加も、景況感の好転には至っていないという。土産物の売上は、前月比概ね横ばいとの声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比38%減少も、前年比は21%増加。3月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比30%増加も、前年比は5%減少。市内料理店の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声が寄せられた。屋神温泉の売上の前年比は、業者により増減分かれる。タクシーの売上は、前月比増加も、前年比やや減少という。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月実績DI -23.1（前月 -21.4）

翌月予測DI -45.8（前月 -30.8）

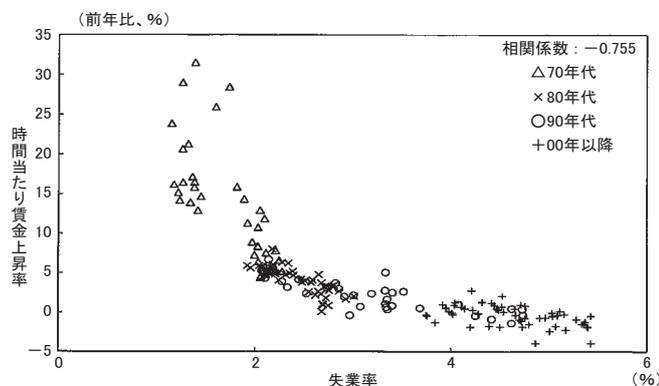
当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス23.1で、前月から1.7ポイント下降。翌月予測もマイナス45.8で、前月から15.0ポイント下降している。

長野県の賃金と完全失業率

各年ごとに失業率を横軸にとり、賃金の上昇率を縦軸にとってプロットすると、右肩下りの曲線が描けることが知られている。つまり、賃金上昇率と失業率の間には負の相関関係が考えられることになる。下のグラフはわが国の時間当たり賃金上昇率と失業率を1970年代からプロットしたもので、これを見ると「賃金上昇率と失業率の間に明確な右下がりの関係があるが、最近になるにつれて、その傾きが緩やかになってきているように窺われる」という。（新谷、武藤「賃金版ニューケイジアン・フィリップス曲線に関する実証分析」日本銀行2014/2）

「人手不足なのに賃金は上がらない」と言われることが多いが、失業率が低下しているにもかかわらず賃金が上がらない現状は、このグラフの傾きが緩やかになっていることから明らかだろう。

その理由は現在様々に分析されており、雇用のミスマッチや賃金の下方硬直性が影響しているかもしれないとする見解もある。

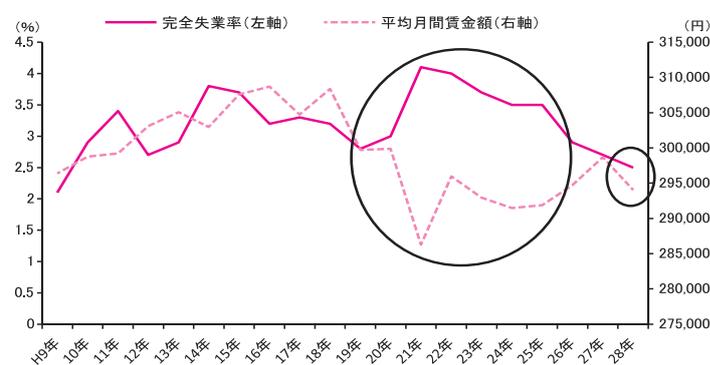


（資料：日本銀行「賃金版ニューケイジアン・フィリップス曲線に関する実証分析」）

次のグラフは長野県「長野県賃金実態調査」と、総務省の「労働力調査年報」により、平成9年から平成28年までの長野県の完全失業率と、平均月間賃金の推移を見たものだが、これによると平成18、19年あたりから完全失業率が増加しても平均月間賃金が上昇しない傾向が、また平成27年頃からは完全失業率の低下と

平均月間賃金の低下が並行して生じる傾向があるように思われる。

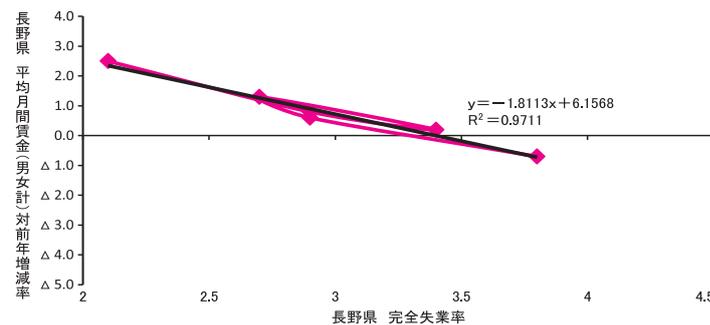
長野県の平均月間賃金額と完全失業率の推移



（資料：長野県「長野県賃金実態調査」、総務省「労働力調査年報」）

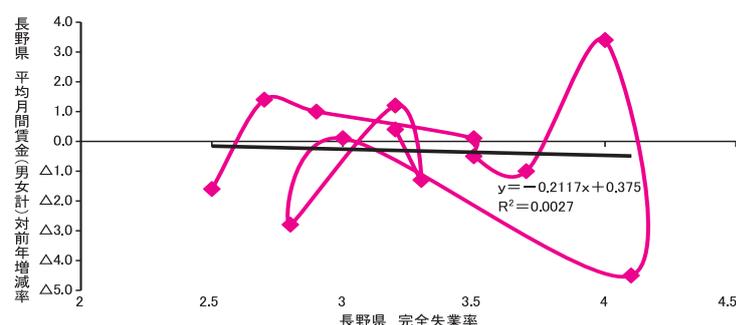
そこで、この期間の長野県の平均月間賃金の上昇率と長野県の失業率をプロットしたのが以下のグラフである。サンプル期間の区切り方にも依存するので即断はできないが、平成14年までの傾きは、それ以降の傾きに比較すれば大きいように思われる。また、平成15年以降は、それ以前と比べて平均月間賃金の上昇率と失業率の負の相関関係も希薄になっているように見える。

長野県の平均月間賃金額増減率と完全失業率（H9～H14）



（資料：長野県「長野県賃金実態調査」、総務省「労働力調査年報」）

長野県の平均月間賃金額増減率と完全失業率（H15～H28）



（資料：長野県「長野県賃金実態調査」、総務省「労働力調査年報」）

機械加工製造業

電気、精密機械器具の販売の前月比は、業者により増減分かれるが、景況感に大きな動きは見られない。先行きは、やや減少～横ばいという。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。雇用面は現状維持との声が多い。設備面で積極的な声は少なくない。

半導体、液晶製造装置向け部品の販売の前月比は、

横ばい～やや増加。しかし、前年比は減少しており、景況感が好転した業者は見られない。「設備投資の後ろ倒しは変わらない。調整中」「堅調に推移しているものもあるが、スマホ向けは先細り」「半導体メーカーの設備投資抑制の影響がある。特に通信装置向けが減少している。暫く続くのではないか」「特に中国向けの部品が激減」などの声。先行きもこうした状態が続くとの見方が多いが、「半導体、液晶関連は少し情報が出だし、暫くするとある程度回復するかもしれない」との声も。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子。雇用面では、「正社員を採用した」「技術経験者募集」「当面現状維持も、常に募集中」などの声。設備面では積極的な声が少なくない。

産業機器や医療機器向け部品の販売の前月比は、「一時的に動いた」「大物が多少増えた」などやや増加した業者も複数見られるが、「受注が減少している」「同業も受注が減っている様子」「現時点では安定している製品もあるが、依然低迷しているものもあり、こうした製品では未だに情報が出ず、先の見通しが立たない」「中国市場は少し動き出したが、国内は悪い」「短納期の案件はある。対応できるかが問題」「見積単価が下がっている」「月後半に動きが悪くなったとの声も聞く」など、減少～横ばいとの声が多い。こうした中、景況感は、好転ないし横ばいとする業者と、「ジリジリと下降」など悪化した業者が半ばする。

原材料、資材価格では、大きな変化はなかった様子も、「ガソリン代上昇」「アルミが4月から値下がり」などの報。雇用面では、「退職者があって不足。求人中」「一名退社。募集はしている」など、増員を考える声は聞かれない。設備面では、「生産性向上のため必要」「機械の入れ替えは順次行っていく」「予定あり」などの声もある中、「景気の悪化に対する警戒を強化している」など先行きの不透明感が増していることもあって、「控える」との声も聞かれた。

建築用金属製品の販売は、前月比概ね横ばいも、前年比増加との声。景況感の好転には至らないものの、「首都圏中心に好調。先々の見通しも明るい」などの声が寄せられた。先行きもこうした状況が続く見込みという。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「ステンレス関係で値上げのアナウンスがあった」という。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比やや減少も、景況感の悪化には至らないとの声が寄せられた。先行きに大きな動きは見込まれていないという。

光学機器部品の販売は、前月比、前年比ともやや減少も、受注がやや回復したこともあり、景況感の悪化には至っていないとの声。もっとも先行きは弱含みという。雇用面で不足感を指摘する声が聞かれた。

小型電磁機器の販売は、前月比やや減少。一部に景況感が悪化した業者も見られたほか、先行きも弱含みとの声が聞かれた。原材料、資材価格がやや上昇との声。一部に設備面で積極的な声が聞かれた。

FA関連モーターの販売は、前月比概ね横ばい。「産業機械向けが減少で推移している」など、前年比はやや減少しているという。「米中貿易摩擦の影響が国内販売でも出ており、今後の収支状況は不透明」など、先行きの不透明感が強くなっている。原材料、資材価格が上昇基調にあるとの声が聞かれた。

電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、景況感も悪化との声が寄せられた。先行きも弱含みという。

雇用面の不足感は続いている様子。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、やや増加との声。一部に、前年比もやや増加との声が聞かれた。とはいえ、総じて景況感の好転には至っていない。「10連休前で需要の先食いか」などの声。「当月も原材料、資材価格の上昇が続いており、「今後も段ボール、運賃の上昇が続くのだろうか」という。雇用面では現状維持の様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

水引製品の販売は、前月比横ばい～増加。「5月の連休の影響で4月後半は売上があった。ただ、連休過ぎが心配」「例年の注文は前年並と見ている」などの声が寄せられたほか、「令和初の正月飾りの企画が始まっている」という。「思ったより返品が少なかった」「運賃、段ボールの値上げが続いており、各社利益確保もあってか値上げを発表している。思惑通りに販売できるかが課題」などの声が聞かれた。「地方の製造業者の減少が目立つ」「やめてしまった製造元の代替を頼まれることもある。如何ともしがたい」などの声が寄せられ、「今後も同じような状況が続くのでは」との声も。こうした中、「年間パート入社」「事務員の募集をしている」「加工が多忙で増員予定」など雇用面で積極的な声が複数。「すぐに効果が出るものでもないが、宣伝の頻度を上げて一步一步地道に活動することも重要と感じる」との声が寄せられた。

その他製造業

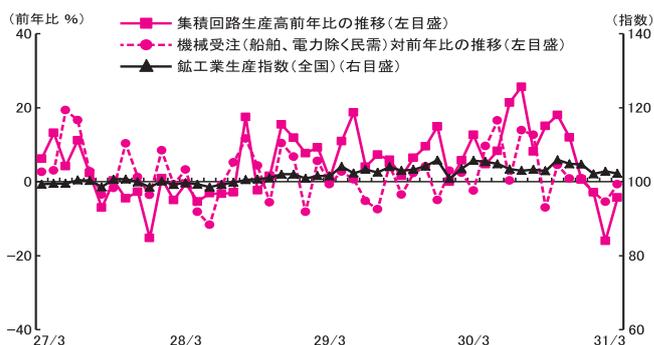
印刷、出版関連の売上は、前月比減少も、これは「季節要因によるもの」で、「選挙があったことや、スポット品があった」ことなどから、前年比は「まずまず」との声。「印刷用紙の不足がまだ当分続きそう。紙、インキの値上げに続き、その他の資材でも値上がりの話が出ている」など、原材料、資材価格は上昇基調にあるという。雇用面で「退職者への対応」などから積極的な声が聞かれた。

住宅機器、オフィス家具、店舗用什器等家具の生産は、前月比、前年比ともやや減少との声が寄せられた。先行き弱含みという。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。設備面では現状維持との声が聞かれた。

【企業からのコメント】

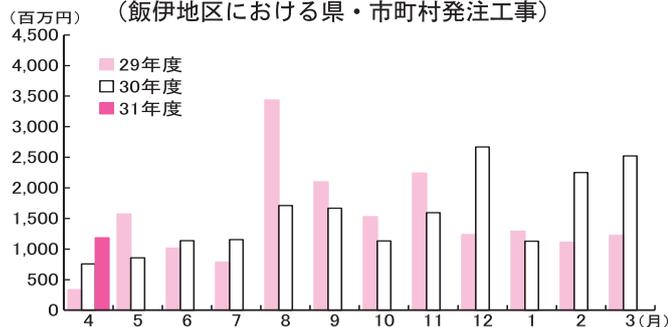
- ★新規に大手企業との業務提携ができそう。
- ★新規品に取り組んでいるが、売上は減少傾向。
- ★夏以降に動きがあるとの情報もある。
- ★米中貿易戦争の影響が迫ってきているのを感じる。

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



月別入札額

(飯伊地区における県・市町村発注工事)



(資料：新新聞入札結果欄より抜粋)

当月景況DI -28.6 (前月 -15.4)

翌月予測DI -20.0 (前月 -21.4)

官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約11.8億円となっている(5月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、増加した業者、減少した業者ともに見られるが、「補正予算で受注」「元請、下請共に受注。当分忙しい」「管内の工事量が多いのか、各社ともに仕事がある様子」「前年度に比べ増加」など、やや増加～増加とする業者がやや多い。

とはいえ、「年度末で受注残の伸びは小さい時期」「県の法面対策、橋梁補修、浚渫や、国の三遠南信自動車道工事、護岸、砂防工事が発注になってはいるが、年度末完成工事の方が多く、仕事が薄い」「市町村の発注工事が薄い」「仕掛工事が少ない」「発注はあるが動きがなく、生コン、骨材の出荷も減っている。受注している会社と、そうでない会社が分かれているのでは」など、景況感は総じてさほど好転していない。

こうした中、「事業量は多いが、概算数量発注方式では詳細仕様が未確定なこともあり、受注後の進捗に難もある」「工種が偏り気味で専門業者が不足する懸念がある」「国土強靱化関係の公共投資が徐々に発注になっているが、競争は厳しい。なかなか取り込めない」などの声。

「年度分が完成しつつある」「昨年度の残工事も5月中には完成。前年度工事の仕上げに取り組む業者が多いのでは」など、時節柄完工高は増加した業者は多い。

雇用面では、「新入社員複数名」「人員増加。募集は続ける」「1名入社」「現状過剰も、将来は不足」「退職予定があり、不足を見込んでいる」「施工職員募集」など、「仕事があっても技術者がいないと受注はできない」だけに人材確保に取り組んでいる様子。

民需

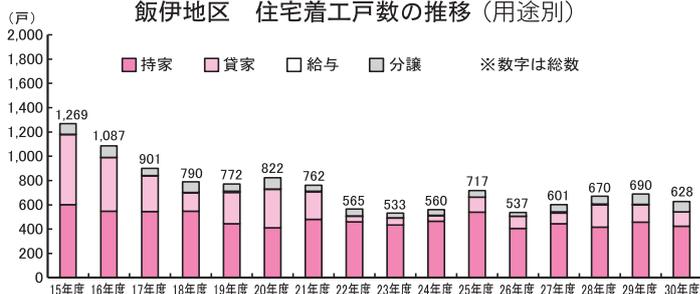
当地区の3月の住宅着工戸数は47戸。前月比18%増加、前年比も2%増加している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、横ばいとの声が多い。「リフォームや改修などが集中して忙しいはあったが、受注金額は小さい。大きな工事は官民ともに少ないのでは」「消費増税前の駆け込み契約があり、例年より受注件数はあるようだが、今後が心配」「新築受注があったほか、リフォームなどもあった」「民間工事の保留分がある」などの声が聞かれたが、景況感に動きは感じられないとの声が多い。

飯伊地区住宅着工戸数(平成30年度)

平成30年度の飯伊地区住宅着工戸数は、持家424戸、貸家118戸、給与1戸、分譲85戸の合計628戸で、前年度比マイナス9%。持家マイナス7%、貸家マイナス18%、給与マイナス67%、分譲マイナス2%と、すべての用途で前年度比マイナスとなっていた。

飯伊地区 住宅着工戸数の推移(用途別)



(資料：長野県住宅部)

建設資材

建材、塗料等の売上は、前月比やや増加も、景況感の好転には至らないとの声。もっとも先行きは強含みという。仕入価格が上昇基調にあるという。

鋼材の売上は、前月比、前年比ともやや減少、「雰囲気的に1～3月までの状況から後退している感。土木系は好調だが、製造業、建築などで厳しさが増しているなど、全体として後退傾向が見られる」など景況感も悪化との声。「昨年の5月は最悪だったが、今年はどうなるか。景気の良い業種も少なく先行きを懸念」など先行きの不透明感が増しているという。「一般鋼材は横ばいも、需要が伸びず値上げが進まない。また、運賃などの上昇が懸念される」との声。

生コンの売上は、前月比、前年比ともやや減少も、年度替わりの要因もあってか、景況感の悪化には至っていない。「主な出荷は、三遠南信自動車道工事、護岸工事、センター・倉庫建設工事、浄水場工事に譲わるもの」という。「前年度からの継続工事で、大きな出荷減にはならなかった。災害関連工事が出ていて、今後に期待」「地元業者は工事を受注できている様子も、まだ生コンの動きはない」などの声が寄せられた。「JR発注のリニア関連工事の出荷量は前月よりやや増加も、全体の出荷量の3%に満たない」という。

骨材の売上は、前月比、前年比ともやや減少。「生コン向け出荷が少なかった」「昨年に比べると4月に完了というものが少なくなった感。発注機関が平準化を意識するようになり、年度末の精算をさほど言わなくなった影響では」「国土強靱化関係の災害復旧や補強工事で、6月くらいから動きが出るとの声も」などの声。「昨年の台風の影響で河川原石が豊富に採取できる。当面原材料の確保に困らないが、多少の問題もある」という。

【企業からのコメント】

- ★大分迷信になってきたが、「選挙の月は仕事が少ない」というが、当月の工事の少なさを見ると一理あるのかもしれない。
- ★製造業も仕事が少なくなったところもある様子。当社の顧客でも休業日を増やしているという。

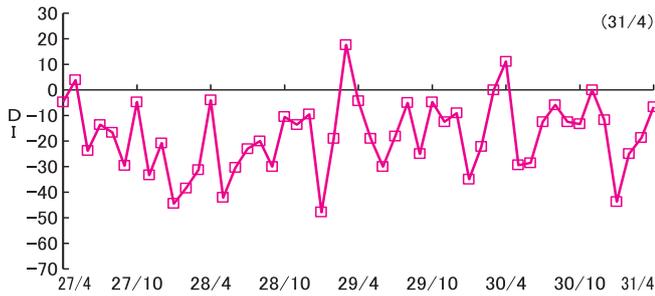
【編集部から】

土木学会は、新設、既存の橋梁に適用された特殊な技術や革新的な技術を作品とみなして顕彰する「『田中賞』作品部門(新設)」に、「天竜峡大橋(国土交通省中部地方整備局、飯田市役所)」他3橋を選出した。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

- 4月 ○飯田建設事務所
 新築 5件(前年11件)
 増築 3件(前年0件)
- 飯田市役所
 新築 27件(前年9件)
 増築 1件(前年2件)
- ※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-6.7 (先月 -18.8)
翌月予測DI	-12.5 (先月 6.7)

商業

食品の売上の前月比は、減少～横ばい。一部に、前年比はやや減少との声。とはいえ「販売促進策の影響も加味すると、前年比はやや増加」などの声も聞かれ、景況感が悪化した業者は見られない。「3～4月にかけてメーカーの値上げが進んでいる」など、依然仕入価格が上昇傾向の一方、「まだ、仕入の値上りを売価に転嫁できていない」などの声は多い。一部に雇用面で積極的な声が聞かれた。

〔青果卸売市場〕

販売は前月比やや増加、前年比やや減少、先行きは増加を見込んでいるという。

野菜は、「寒暖の差が大きいことや、寒の戻りの日が多く、生育が遅れ気味。雨不足も重なり、筍、レタス、ミョウガ、山菜は前年比5、6割の出荷量。全体では、入荷量9%減、価格は7%高となった」という。

果実は、「苺は前年並みの販売も、後半少なめ。バナナが不作で28%の入荷減。晩柑類は順調な入荷。果実全体では入荷量2%減、価格は5%高だった」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや増加も、景況感に動きは感じられないとの声。先行きはやや弱含みという。仕入価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。

電化製品の売上は、前月比、前年比とも増加、先行きも強含みとの声。「ゴールデンウィーク10連休で営業日が少なく、在庫調整、売上確保が難しかったにもかかわらず売上が増加した大きな要因は、小、中学校の空調設備事業。現場は連休中も動いていた。工期も短く、現状が精一杯というところ」という。

家事用品の売上は、「3月よりは少し良い」など前月比増加との声。「紙類は、高級なものを中心に欠品が多く、値上がりもしている」「季節商品を早めに投入したが、売れ行きは天候次第」「気温にもよるが、ゴールデンウィーク中に少しでも動きが出れば良いが」などの声。販売価格について、「仕入の値上がりに対して単価を上げにくい」という。「10月の消費増税が心配。売上が落ち込むのではないかと。人件費も上がっている中、小さな企業は大変」との声が寄せられた。

OA機器の売上は前月比減少の様子。「年度末が終わり一段落ついたようで、落ち着いてしまった」などの声。ここでも「紙製品の大幅値上げ。今後も続く見込み」という。

衣料品の売上は、前月比、前年比とも増加との声。「官公庁の受注があったため大幅に増加したが、これを除くと売上は減少している」など、景況感の好転には至っていないという。

土産物の売上は、前月比概ね横ばい。景況感にも大きな動きは感じられないものの、先行きは販売の増加

を見込んでいるとの声。商品在庫も積み増している様子が窺える。当月も仕入価格が上昇基調にあるという。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比38%減少も、前年比は21%増加。中古車も、前月比1%減少も、前年比は40%増加。3月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比30%増加も、前年比は5%減少。中古車は、前月比47%増加、前年比も4%増加。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比、前年比ともやや減少との声。「前半は良かったが、連休前から宴会が少なくなり、客数が落ちた」「家族連れが少なくなっている。常連さんを大事にしていきたい」などの声が寄せられた。仕入に関し「4月から色々なものが値上がり」といい、「市場からも今一との声を聞く」との声。こうした中、「在庫を少なくして新鮮なものを出していく」との声が寄せられた。

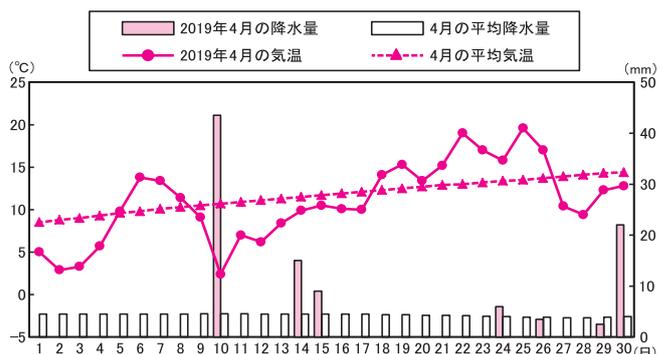
昼神温泉の売上の前年比は、業者により増減分かれる。増加した業者も見られた一方で、「花の便りが近づくにつれ動きが出てきたが、半月ばまで続いた先月までの悪い流れを断ち切って取り戻すことができなかった」「連休を控えて出控えもあるのだろうか」などの声も。先行きに関しては、「5月の連休中は連日満館」との声が聞かれた。ナイトツアーに関し、「価格の改定、予約方法の変更などもあってか、平日は昨年より少ないと思う」との声も。人手不足に関し、「シルバー人材や外国人研修生で対応」「清掃要員は何とかなっているが、仲居さん、板前さんがいない」などの声が聞かれた。

タクシーの売上は、前月比増加も、前年比やや減少との声。「一般のお客様の需要拡大は厳しい状況。特に夜間需要が伸び悩み」という。消費増税に伴うキャッシュレスの推進に関し、「消費者はどのくらい関心があるのか、各社の対応はどのようなものか、数か月のうちに結論を出さなければならない」などの声。雇用面で依然不足が続いており、「高齢化と新規労働者の確保が困難なことから稼働率が低下。当社に限らず労働力の確保、労働環境の改善が大きな課題となっているのでは」との声も。「LPGがやや値上がり傾向」という。「監督官庁の審査を経て、運賃が今年度中には改定になりそう。労働環境の改善等で機動力を確保したい」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★消費増税対策のカード決済も、設備も必要だし、手数料を支払うとメリットはないのではないかと。
- ★「宿泊客の流れは花の咲き方に比例していると改めて感じる」「星空に関するイベントが至る所で始まっている。危惧している」
- ★令和が、商売にとっても良い時代となりますように。

飯田の気温と降水量



流れ雲の目（29） 文明の利器

飯田信用金庫 地域サポート部
専門アドバイザー 小泉 敏郎

一般的に見て営業と工場とは、あまり仲が良いとは言えないようだ。

営業は常に客先と直接接触をしているので、どうしてもお客先側の立場で物事を考えるようになり、特に納期と価格では工場と揉めることが多い。私の営業経験から言うと一日の時間は客先周りより技術、工場への依頼、説得、納期調整、社内調整に割いた記憶がある。

ある40人程の特殊な金属加工技術を持つ業績の良い優良企業の話だが、ここに来て大きな悩みを持つようになってしまった。

その社長の相談事とは。営業が頑張って注文を沢山取ってくれるのは嬉しいのだが、工場の生産能力以上に注文を取ってくれるので工場はフル稼働の上、残業や休日出勤の連続で工場関係者は疲れ切ってしまった。営業は客先から煽られ、納期の督促を工場に頻繁にしてくるのでとうとう工場関係者と営業の関係がぎくしゃくしてしまった。社長としては営業、工場どちらの立場も充分理解できるのだが、まさか注文を取るなどとも言えないし、工場の現実も目の当たりに見ているのもっと頑張れとも言えない。いったいどうしたら良いのだろうか、解決できるのだろうかと夜も眠れない日が続き、悩みのあまり食欲はなくなるし体も衰弱するはで最悪の状態になってしまった。

そこで、営業も工場が作成した生産進捗管理表を遠隔地からでも閲覧可能にし、工程の稼働状態、進捗度合いといったデータ情報の共有化を図ることが大事。各機械設備の能力を把握し、工程を組み合わせることで、今注文取れば納期がいつになるかを正確にはじき出せるようにすれば、受注時に客先と納期の調整し了解を求めておくことができる。今の時代、ソフトで工程管理システムの構築はできるはずである、とアドバイスする。

早速社長は某ソフト開発会社に相談をして見ると、システムの開発は可能との返事もらった。どんな情報が欲しいのか、使い勝手はどうだろうかと、技術的な打ち合わせが何度も行われた。いろいろと検討し、やりたいことの優先順位を決め、段階的にシステム開発をすることになった。途中何度も仕様を変更し、結果約一年がかりでベースのソフト開発が完了した。客先の注文毎の納期、進捗状況がタブレットで遠隔地からも見ることができ、営業からの評判もよく、客先との納期トラブルも殆んどなくなった。現状の設備の稼働状況、繁忙具合が一目で分かり、見積りも短時間になり見積り精度も上がったため、事後の原価計算との乖離も少なくなり利益の向上にも繋がった。

各機械の初期設定も過去データを蓄えることができ、何時でも取り出して使えるため製品の精度もどんどん上がってきた。手書きの帳票類も電子化され事務員の仕事も楽になり二人の女子事務員を一人にでき、検査に一名

廻すことが出来た。

費用は結構かかったというが、費用対効果で言えばすぐに元が取れると社長は言っている。

システム完了後約一年使用してみて、もはやこの生産管理システムなしでは工場経営は成り立たないと言うほどに有効活用している。

約一年間使用してみると、もっとああしたい、こうしたいと作業員から要望が沢山出てきており、更に機能を上げるためのバージョンアップを現在お願いしているとの事である。

立場の違う部署が共通の情報を持つことにより、相手の立場になって物事を考えられるようになる、同じ社内ではとにかくデータや情報は共有化をすることが円滑に会社経営するための第一条件ではないか。

IT化の波はもはや猛スピードで我々の生活に入り込んできている。今後AIの発展と共に仕事のやり方、考え方も当然変わっていくし、これらを巧く活用していかないと時代に取り残されてしまうことは間違いない。

会社の運営、生き残りのためには経済環境の変化の察知、テクノロジーの発展に遅れることなく追従し、『文明の利器』を有効活用することは必要条件となる。

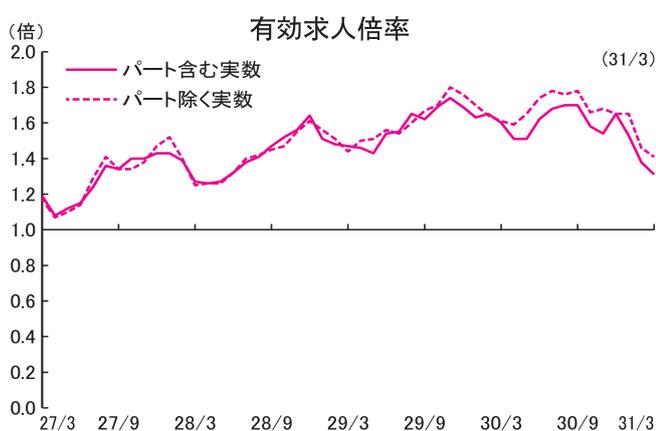
会社も生き物である、その時々々の経済環境変化に素早く反応し会社そのものも自ら変化していくことが生き残る道ではないだろうか。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

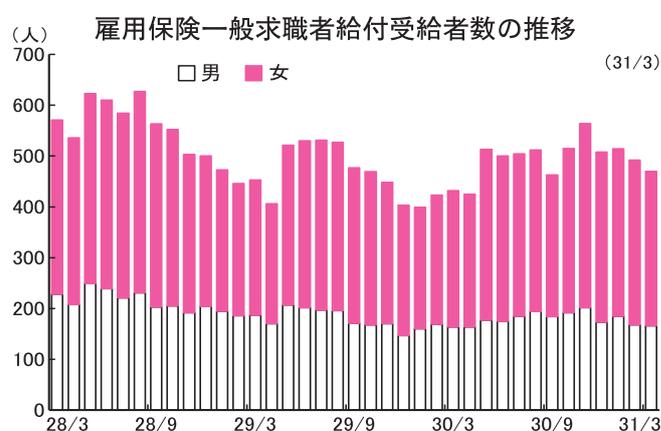
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課（飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132）まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



31年3月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.31倍と、前月から0.07ポイント低下。パートを除く実数は1.41倍で、前月から0.05ポイント低下している。



31年3月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は2人減少、女性も20人減少。全体では470人と前月から22人減少している。

(資料：ハローワーク飯田)

リニア時代を迎える飯伊地域の資源（5）

赤石山脈（南アルプス）（2）南信州遠山郷

～ 絶景とは裏腹、厳しい道路事情～

前回（No.478 2019/1）に続き、南アルプスを巡り、各地域をみていく。

1. 南アルプス来訪者は横這いで推移

南アルプス登山にどれ程の人が来ているのか。概況が判る資料としては、長野県の「観光地利用統計調査」（以下「調査」）がある。これにより飯伊地区内の観光ポイントをみていくと、大鹿村の「南アルプス」と飯田市南信濃の「南アルプス」が目につく。

この2ポイントの推移は、右下グラフ1の通りで、近年では大鹿村の「南アルプス」（以下「大鹿村」）は年間25千人弱、飯田市南信濃の「南アルプス」（以下「南信濃」）は年間5千人弱で推移していることが判る。「南信濃」の平成28年が落ち込んでいるのは、同年9月の豪雨による崩落により、市道南信濃142号線が通行止めになった影響と思われる。

山登りが主目的とみられるこれらポイントに対し、遠山郷での散策その他が主となる観光地の利用者は、登山客をひと桁上回る規模で、しらびそ高原は年間7万人強。下栗の里は、同7万人弱で推移していたが最近と同5万人程度となっており、これも前述の道路事情が影響しているとみられる。

2. 観光統計調査の実情

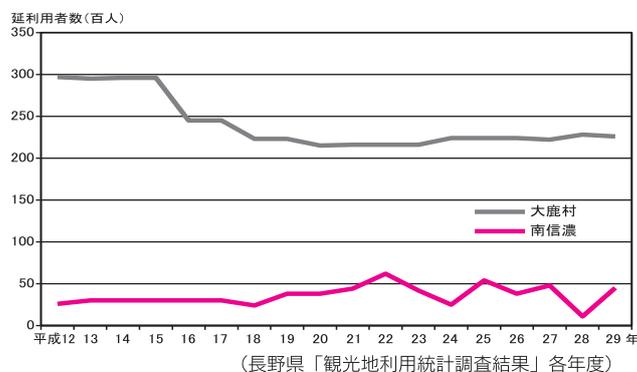
登山口への来訪者データはどのようにして採っているのか。調査を主管している長野県の南信州振興局商業観光課に照会したところ、「実際の測定地の設定とデータ取得・取りまとめは、各市町村が行っている」とのことであった。「南信濃」については、飯田市観光課遠山観光振興係によると、^{いろろど}易老渡と^{たよりがしま}便が島の登山口に光学式で通過者をカウントする機械を設置する。それにより主に^{ひじり}聖岳、^{いろう}易老岳、^{てかり}光岳への登山者がカウントされる。これによると、同じ遠山郷の別の登山口から^{いけぐち}登る池口岳への登山者はカウントされていないことになる。

担当者の村松氏によると、毎年残雪が消える頃、機械を背負って運び上げ設置する。機械は通過者の方向を捉えてカウントするため、入山者と下山者を混同することはない。また「調査」では、「延利用者」つまり「1人が1泊した場合は2人」と捉えるが、登山者については山での滞在日数は考慮できず、通過者数をそのまま計上している。

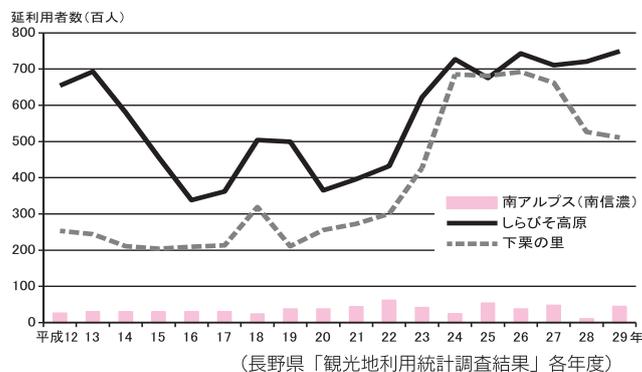


飯田市上村下栗から臨む南アルプスのピーク
左から兎岳、聖岳（百名山）、上河内岳（二百名山）

グラフ1 南アルプスへの来訪数推移



グラフ2 遠山郷の主要観光ポイント来訪数



3. 崩落が多発、生活・観光利用に支障

遠山郷の旧上村を中心にみていく。国道152号線を中心軸として左右に道路が展開しているが、まず梨元から遠山川に沿って行く道路は、以前は柿の島集落辺りまでは行けたそうだが、崩落により梨元から分かれて間もなくの箇所で行き止まりとなっており、登山口へ向かうには、上町もしくは上島から下栗を抜けて行くしかない。遠山川に沿ってはかつての遠山森林鉄道の軌道敷跡が残されており、それなりの幅員はあるが、崩落によって寸断され、隧道が埋まり、橋梁が落下している状況で通行できない。

下栗を経由して行っても、北又渡の先の芝沢ゲートでその先の崩落のため通行止めとなっている。これまで易老渡、便ガ島の登山口まで車で上がることができたが、芝沢から徒歩となるため、往復で数時間のタイムロスとなる。

遠山郷へ入ったのは5月初旬であったが、下栗から御池山クレーターなどを巡ってしらびそ高原へ至る林道も崩落のため半場の先で閉鎖となっている。観光施設の担当者は「国道152号線の大鹿村へ向かう地蔵峠も崩落で通行止めになっていることもあり、杖突峠（茅野市）から遠山郷までを縦断するようなマイカー客やバイクツーリング客が減っている」とのことであった。

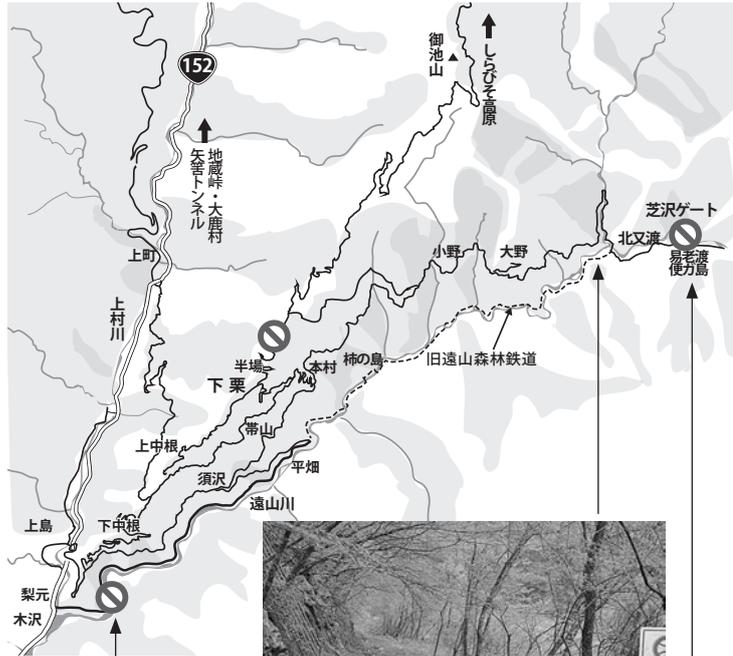
4. 南アルプス利用者増には困難が多い

飯田山岳会の伊藤康徳会長によると「日本百名山の中では、荒川（^わ蕨^{さわ}）岳以南の南アルプス南部全体について言えることだが、聖岳、光岳はいま最も登山し難い（寄り付きが難しい）山のひとつ」という。三遠南信自動車道が全通すれば、リニア長野県駅から遠山郷の入り口までは30分程度で到達するが、その先は…。

遠山郷で、地元の方からの「崩落箇所を早く何とかして欲しいが、その先に人家・集落がないところなので、優先度で復旧までに時間を要することになってしまう。」という話が印象的であった。

遠山郷概略図

(リニア対策課作成)



遠山森林鉄道軌道敷跡



梨元から間もない箇所で行き止まりの市道



芝沢ゲート 崩落のため閉鎖



落石の激しさを物語るガードレール

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)